

まごころ味噌特集

空っぽの味噌樽に、コネコネと丸めた味噌だんごを投げ入れる。「ボン！」と大きな音が鳴る。仲間はケラケラと笑う。職員もつられて笑ってしまう。大きいだんごがあったり、小さいだんごもあったり、つぎつぎと丸めては樽にドンドン投げ入れる。「ボン!」、「ボン!」と、そのたびに音が鳴り、そのたびに笑い声が聞こえてくる。

「まごころ味噌」を作る味噌工房(味噌部屋)は、みやこ西院作業所の1階奥にあります。食品を作るところなので、衛生面では特に注意して作業をしています。味噌製造はとても寒い時期のエアコンを使えない作業になるので、仲間も職員も暖かい服を着ています。味噌の担当の仲間は、更衣室で白衣を着て、着帽してから味噌部屋に入ります。部屋に入ったら白い長靴に履き替え、手洗いを済ませたら準備完了。いよいよ作業にかかります。

仲間と職員と一緒に作る「まごころ味噌」は毎年秋から冬の終わりまでの6カ月間を掛けて、1樽50キロ入りを16樽(約900キロ)仕込みます。その1樽を仕込むのには4日間掛かります。

まず1日目は洗米をします。真冬の水を使って素手でお米をゴシゴシ研ぎます。「冷たい！」と言いながら研ぎ出すと、白くにゴった研ぎ汁が出てきます。ある程度にごりがなくなるまで水を入れ替えた後、翌朝まで浸漬させます。

2日目は米を蒸します。蒸したお米は大変熱いので、火傷に気をつけながら蒸し器から取り出します。手早く団扇でパタパタとあおいで冷まし、50℃ぐらいになったら麹菌を種付けしてまんべんなく混ぜます。これが米麹(こめこうじ)になります。みやこでは米麹を作るところからやっています!

3日目は米麹の切り返しと大豆洗いです。米麹の発酵が始まると、**米麹のとてもいい香り**が部屋中に広がっていきます。続いて大豆を洗います。仲間と一緒に小分けにした大豆を小さな樽に入れて、大きなしゃもじでグルグルとかき混ぜ洗います。何回か洗って汚れが取れたら、たっぷりの水に浸漬して翌朝までおきます。

そして4日目が仕上げの味噌だんご作りです。まず大豆を圧力釜で炊くのですが、炊きあがったばかりの大豆はとても高温で、大豆からモクモクと湯気が出てきます。早く冷ますように部屋の窓という窓を全開にするので、「わあ～、さむ～」と、あまりの寒さに大笑いしています。

冷ました大豆と発酵させた米麹(薄っすら緑色になっている!)とあら塩を合わせて、ミンチ機で潰して、いよいよ味噌だんご作りの始まりです。空っぽだった味噌樽が、味噌だんごで一杯になっていきます。そうして、みやこの「まごころ味噌」は作られています…。

ずいずいずっころばし

ごまみそずい ちゃつぽに…



おわれて
どっぴん
しゃん!

リズムカルにお味噌をつめています♪



まごころ味噌 900g入り 800円

※要冷蔵 600g入り 600円

国産の原材料にこだわり 安心・健康な減塩味噌。

おみそ汁にはもちろんサバの味噌煮など様々な料理に使いやすいお味噌。おみそ汁はお出しを濃い目にするとお味噌の美味しさがより一層味わえます！！

砂糖などと合わせて焼きおにぎりにも◎

もっと手軽にお味噌を味わって欲しい…



フリーズドライ味噌汁

おいしいおみそ汁

～とうふとほうれん草・わかめと油あげ 各5食～

1100円

お湯注ぐだけですぐできる！！

お弁当のお供にも最適！！

ご家庭の常備食としていかがですか？

ご注文 (FAX-321-5588 みやこ西院作業所)

まごころ味噌 (900g)	800円	個
まごころ味噌 (600g)	600円	個
おいしいおみそ汁 (10食入り)	1100円	セット

名前： _____

住所： _____

TEL _____ FAX _____

京都市内は1つから配達致します！！その他の地域の方は宅急便にて発送いたします。3000円以上ご注文で送料無料

お問合せ：みやこ西院作業所 TEL075-321-8880 FAX075-321-5588

たんぽぽ燦燦会

たんぽぽ燦燦会では京都大学などの学生を中心としたボランティアの皆さんと仲間が月に 1 回余暇活動をしています。今年度は新型コロナウイルスの影響でまだ活動が実施できていません。

学生ボランティアさんに近況を寄稿いただきました。

いつもお世話になっております。サークルたんぽぽ 2 回生の中島隆介と申します。私からたんぽぽの近況をご報告します。

まずは、ボラの中で新型コロナウイルスの被害に遭った者はいない、ということをお願いします。仲間やそのご家族、職員さんの中にもそういった方がいないと伺い、安心しております。厳しい状況ではありますが、今後もどうかご自愛ください。

さて、新型コロナウイルスの影響により 3 月たんぽぽが中止となり、4 月、5 月、6 月と、たんぽぽが開催できなくなってから 4 ヶ月が過ぎました。ボラの間では「はやくたんぽぽをしたい」「仲間会いたい」という声が絶えず、「たんぽぽロス」が広がっています。私は先日作業所に行く機会があったのですが、仲間からいつになく歓迎してもらえたり、次のたんぽぽはいつかと聞かれたりと、仲間も同じ気持ちだと分かりました。普段通りのたんぽぽを行いたいという思いは日を追うにつれて強まるばかりです。

とはいえ、今すぐに普段のたんぽぽを、というのは難しい情勢です。それでも、なんとか仲間に関わりたい、楽しんでもらいたいという思いから、ビデオレターや手紙による「遠隔たんぽぽ」を計画しています。塗り絵や絵本など、家の中で楽しめるようなものも提供しようと考えています。また、ボラ同士の話し合いや作業も全てオンラインで行っています。普段と違ったことに苦勞しながらも、7 月の早いうちに実行できるよう準備を進めているところです。対面で行えないがゆえ制限される部分も多いですが、仲間を楽しんでもらえるよう精一杯取り組みたいと思います。

今のところ、次に行く対面でのたんぽぽは 9 月を予定しております。もちろん仲間の安全が第一だと考えておりますので、今後の情勢を見て、ということになります。また、感染リスクを抑えつつたんぽぽを行う方法についても模索中です。できるだけ密にならない施設を使う、集合の方法を工夫する、混み合うバスや電車は避ける、など様々な感染対策を講じていこうと考えています。今後のたんぽぽでも感染対策は引き続き行い、新型コロナウイルスが完全に終息するまでしのぐつもりです。

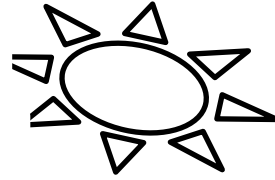
情勢が悪い方向に転じることなく、無事に次回以降のたんぽぽを行えることをボラ一同祈っております。

拙い文章となり恐縮ですが、私からのご報告はこれで以上となります。ご清覧ありがとうございます。ありがとうございました。

連載第 57 回

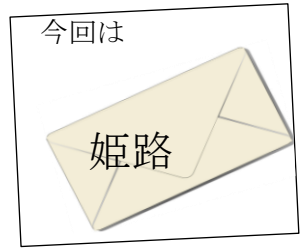
北から南から

こんにちは！



今回は

姫路



日本全国津々浦々、果ては世界にお住いのみやこに携わっていただいた方から届いたお便りです。

ご無沙汰しています、サークルたんぽぽ卒業生の藤田と申します。早いもので、卒業して6年以上が経ちましたが、相変わらず落ち着きなく元気でやっております。みなさんはいかがお過ごしでしょうか。

現在でもたまにたんぽぽやみやこの活動に参加している同回生から、噂でみなさんの様子を聞くことがあり、その都度、お久しぶりにみなさんにお会いしたいなと思っはいるのですが、仲間のみなさんに忘れられているのではないかと不安があり、また、若いボラに混ざる勇気や元気もなく、何年も活動に参加できていない現状です。そんな中、昨年11月に開催されたみやこふれあい祭りには、ちらっと覗きに行かせていただくことができました。その際、思っていた以上に、ちらほらと、仲間の方々に声をかけていただけて、本当に嬉しかったです!!「ああ、頑張らなあかんあ」と元気をいただきました。学生時代から、みなさんからいただいた元気とパワーを返そう返そうとは思いつながら、結局いただきっぱなしで、現在疎遠になってしまっていることを申し訳なく感じています。今後は自分にできる還元の仕方を考えていかないといけないなあとも考えさせられました。

さて、私は現在、過去に失敗をした人が社会でやり直す際に円滑にいくようサポートする仕事をしています。「今、目の前にいる人がどんな人で、何を考えていて、その人に対して私には何ができるのか」ということを考えながら寄り添いたい!という思いでこの仕事を選びましたが、上手くいかないことの方が多日々を過ごしています。しかし、たんぽぽの活動で得た、「目の前の人のことを知ろうとすることを諦めない力」はいまだに無くさず、仕事にも活かしている気がします。私は、学生ボラるとき、「相手のことをわかった気になることは危険だ」とずっと戒めのように考えていました。たんぽぽ以外で仲間のみなさんと関わっていくことでもいいですし、みやこの職員さんから話をうかがうことでも、ボラ同士で語り合うことでもいいです。どんな形でも、現役ボラのみなさんには、向き合うべき人たちのことを、貪欲に知ろうとし続けていってほしいなあと思います。

少し話は変わりますが、私の仕事に関係している人の中には、「福祉の支援から漏れた人」も沢山います。過去には、作業所に勤めているのにもかかわらず、「ゆっくり話を聞いてくれる人がいない」とストレス発散に他人に迷惑をかける行為を……という人もいました。そんなとき、「たんぽぽにこの人が参加していれば違った未来があったかもしれない」と考えたこともあります。他人への迷惑と言うと極端で、現実味はないかもしれませんが、少なくとも、自分が社会人になって強く思うことは、「何か楽しみがないと日々の仕事なんてやってられない!」ということです。多くの人にこの気持ちは共感していただけるのではないのでしょうか。日々、仕事に全力で向き合っているであろう仲間のみなさんにとって、少しでも、サークルたんぽぽが自然と笑顔になれる、ストレス発散の場であってほしいなあ願います。また、学生ボラにとっても、悩むだけの場ではなく、少なくともたんぽぽ当日だけは、全てを忘れて笑っていただける場であってほしいなあ願います。

最後になりますが、たんぽぽに関わってくださっている仲間の方々、保護者の方々、みやこの職員さん、そして、現役ボラのみなさんの益々のご健勝ご多幸をお祈り申し上げ、締めさせていただきます。ありがとうございました。